

# 令和2年度学生生活満足度および生活実態調査

在学生を対象に学生生活満足度および生活実態について調査を行った。調査対象者は本学の在学生で、令和3年1月1日現在において休学していない者とした。詳細は下表のとおりであった。調査時期は令和3年1月上旬～2月上旬であった。

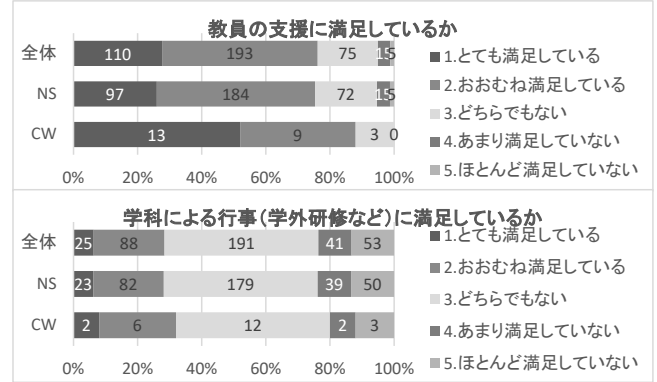
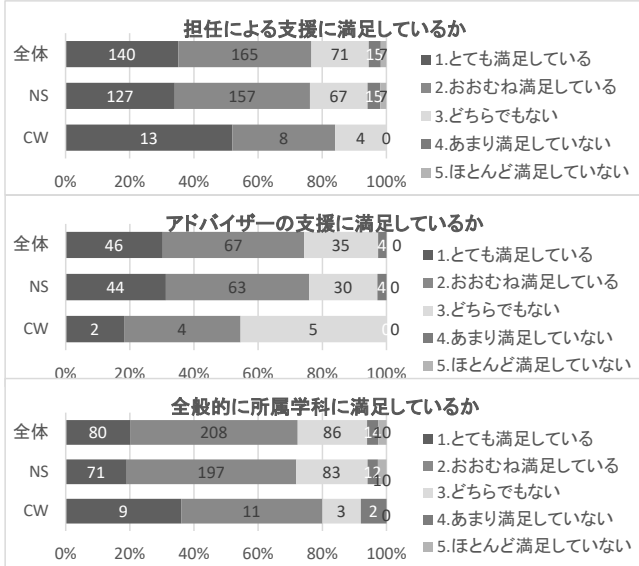
今年度より看護科と医療介護福祉科の2科となり、回答者の約94%を看護科の学生が占めた。そのため、全体の傾向は昨年に引き続き看護科に強く影響された結果となっている。

さらに今年度は新型コロナウイルス感染拡大を予防するために、前期は登校自粛、オンデマンド授業の開始、一部のみ対面授業など初めての試みが多かった。そのほか、学生生活における行動ルールが示され、学内の施設利用などにも規制をかけざるを得なかった。そのため学生生活には大きな変化が生じており、調査結果はそれに影響を受けたものも多かった。それらに対しどのように学生が考えているかを明らかにするために、自由記述では「新型コロナウイルスの影響で学生生活に対する満足度が上がったこと・下がったこと」に対して答えてもらった。

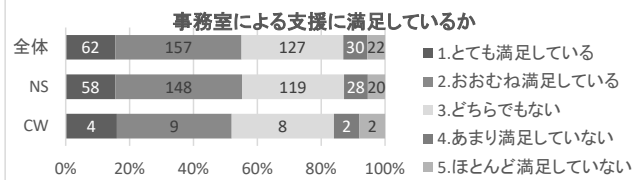
生活実態調査は質問項目と回答の選択肢をシンプルに答えやすく工夫し、学生の回答の負担を軽減するように配慮した。

	クラス別					学科別	
	NS1	NS2	NS3	CW1	CW2	NS	CW
対象者数	134	134	146	13	14	414	27
有効回答数	134	134	126	13	12	394	25

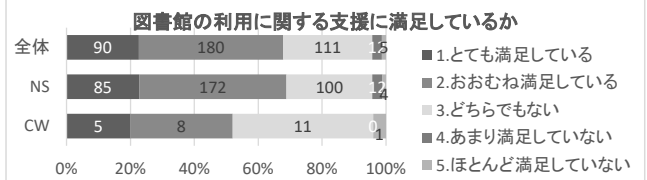
## 大学生生活満足度



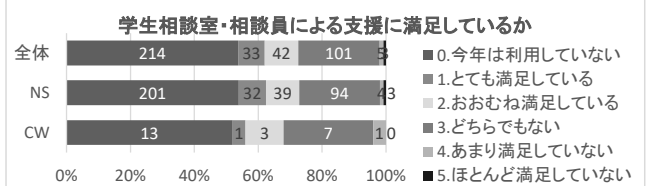
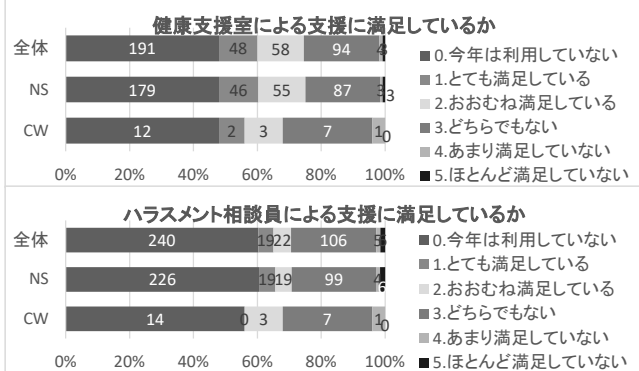
## ◆事務支援



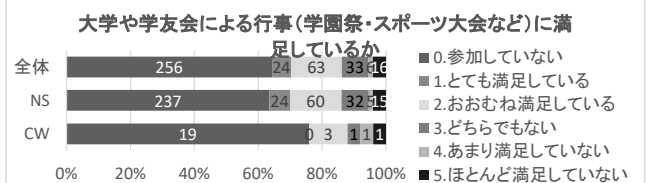
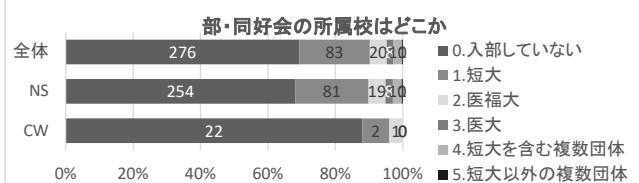
## ◆図書館



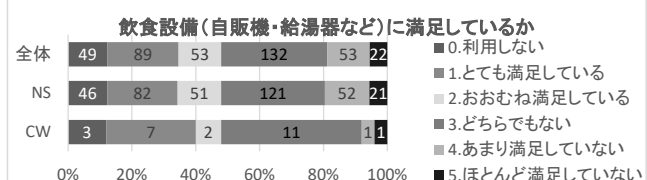
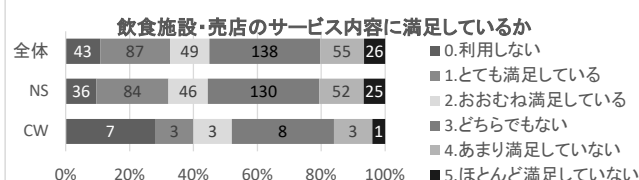
## ◆学生生活支援



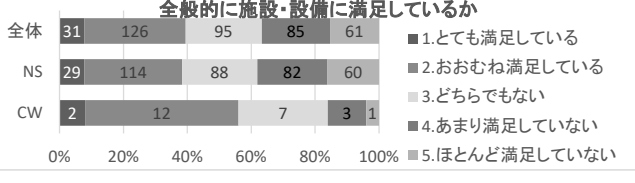
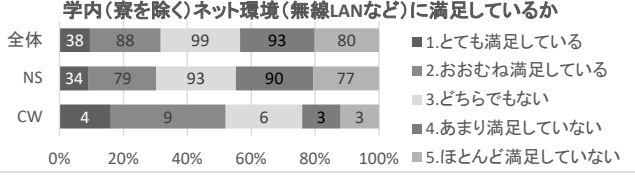
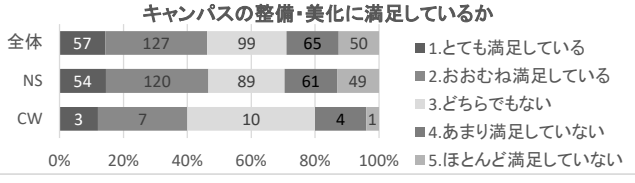
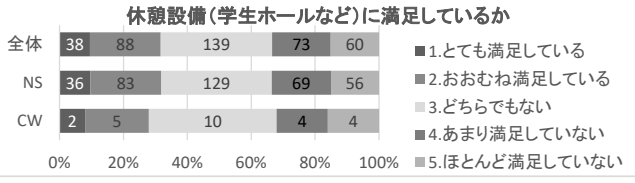
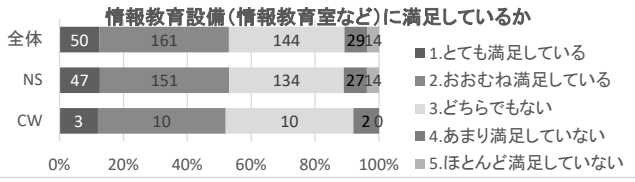
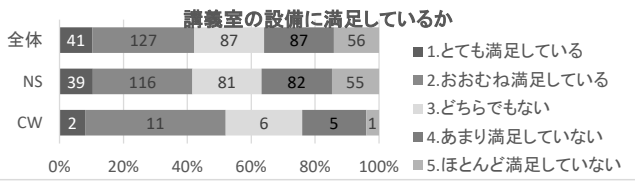
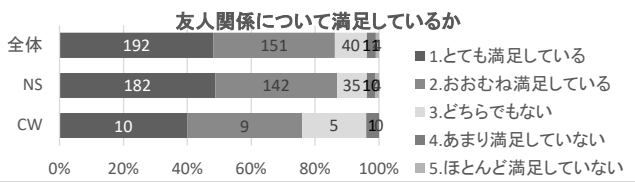
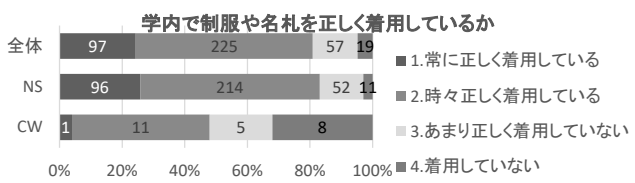
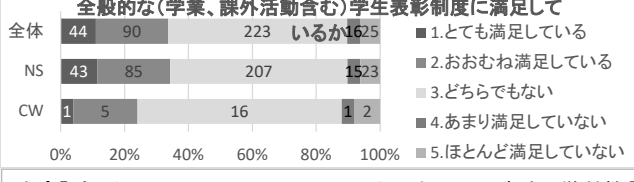
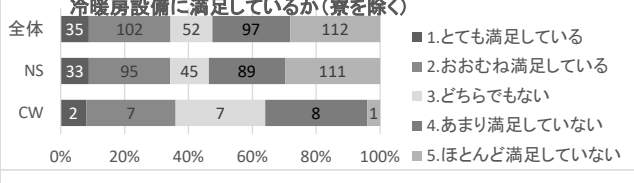
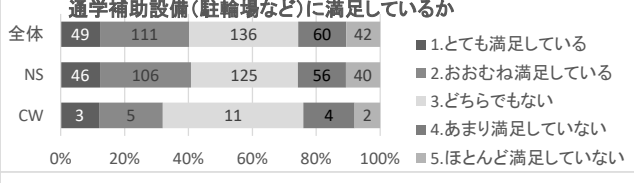
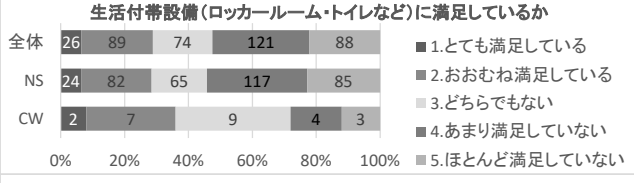
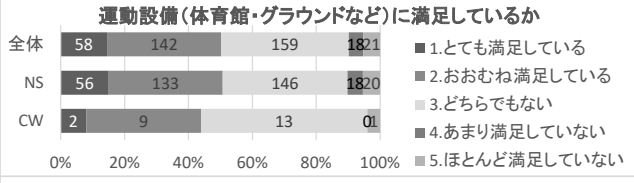
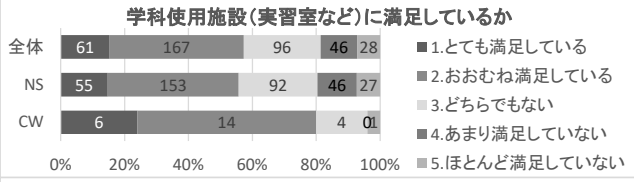
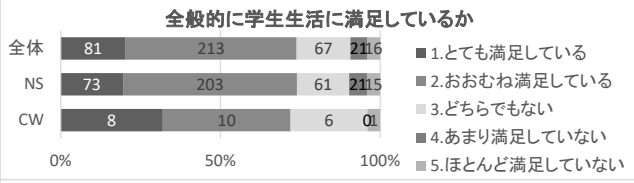
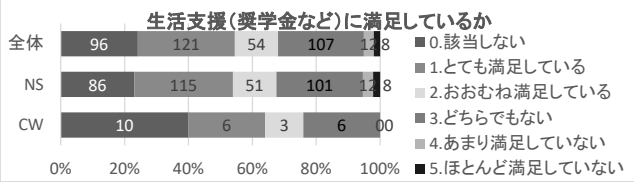
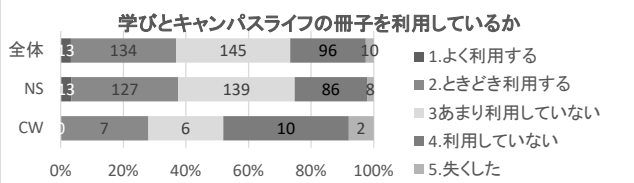
## ●学生会(部・同好会)の活動について



## ●飲食施設について



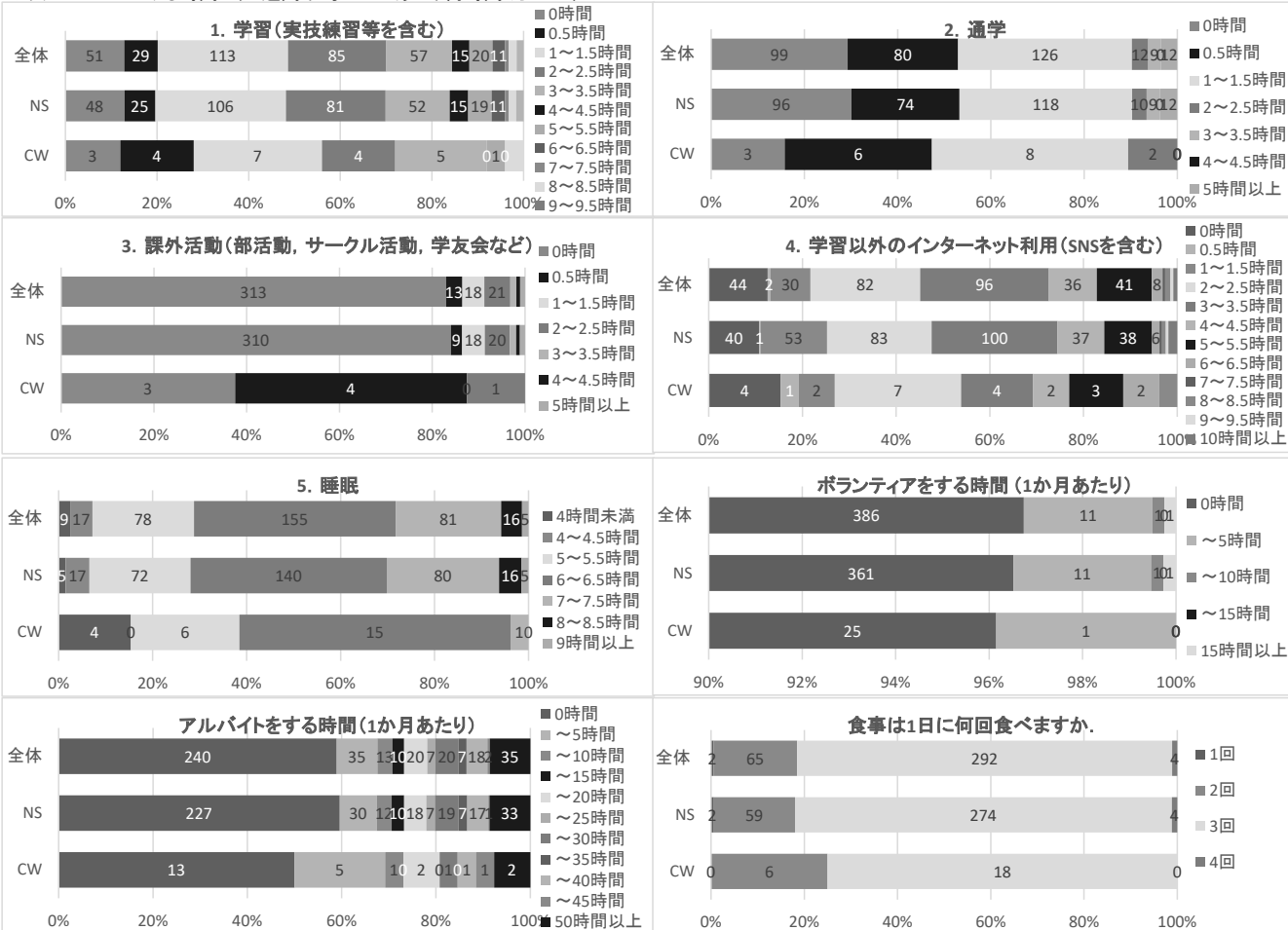
●その他



**内容評価:** 教員・友人関係に対する満足度は高かった。担任・学科教員・アドバイザーの支援に「とても・おおむね満足」しているのは76.7%であった。本学では入学時のサポートや実習指導・国家試験対策・就職活動支援などにおいて教員との関りが深く、実際にサポートを受けることも多いため、高く評価した学生が多かったと考えられる。さらに、友人関係について「とても・おおむね満足」とした学生は86.1%で満足度の高い学生が非常に多かった。全般的な学生生活に「とても・おおむね満足」とした学生は73.9%で、「あまり・ほとんど満足していない」としたのは9.3%であった。しかし今年度は新型コロナウイルス感染予防対策に影響を受けて満足度が下がったと考えられる項目も多くみられた。図書館利用に関する項目や大学行事に関するものがそれである。たとえば図書館利用に関する支援に「とても・おおむね満足」と回答した学生は67.8%で、昨年度の78.0%から10.2%減少した。感染対策のための閉館や閲覧の制限、長期に渡る利用人数制限などに影響を受けたと考える。

# 学生生活実態調査

● 次の1～5にかける時間は、1週間平均で1日あたり何時間くらいですか。



**内容評価:** 学習時間は1日あたり1～1.5時間が最も多く(28.5%), 次いで2～2.5時間(21.4%), 3～3.5時間(14.4%), 0時間(12.8%)の順であった。昨年は平日の学習時間が1時間未満の学生が29.9%で、他の区分に比べて最も多かった。それに比較すると今年度は1時間未満の学生は20.2%で、やや減少している。しかしまったく学習していない学生が12.8%いるなど、学習不足が懸念される学生も少なくない。これらの学生が学習に向き合えるような工夫が必要であり、授業内で予習・復習の確認をするなど各科目で取り組む必要がある。またインターネットを利用する時間は3～3.5時間/日をもっとも多く(24.1%)、授業外の時間の多くをインターネットに費やしている学生が多いことがわかった。一方、課外活動・ボランティアの時間が0時間の学生が83.0%・96.7%で、ほとんどの学生が課外活動やボランティアをしていない実態がわかった。本学は医療系で余暇時間が少ないこともあり、元々、課外活動やボランティア活動はそれほど活発ではなかった。そのうえ今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から活動自粛した時期もあり、さらに活動の減少が生じたと考えられる。課外活動やボランティア活動は幅広い人間性や社会性が養われるなど、学生にとって有意義な活動であるため、感染が収束した後は、学生が活動できるように支援する必要がある。

## ●自由記述

### 1. 新型コロナウイルスの影響: 学生生活の満足度が上がった原因(回答を分割して内容ごとに集計)

満足度が上がった理由	回答数	満足度が上がった理由	回答数
オンデマンド授業による学習効果	55	感染予防知識が身に付いた	2
別クラスの新しい友人ができた	2	学習環境の変化(静か)	1
生活の変化(ひとり暮らしになった)	1	〃(感染予防できた)	1
生活の変化(自由度が増した)	1	〃(体育館講義室での受講)	1
〃(在宅時間の増加)	3	その他	1
〃(睡眠時間の確保)	2		
〃(余暇時間の増加)	3		
〃(学習時間の確保)	2		
〃(通学時間の短縮)	7		

### 2. 新型コロナウイルスの影響: 学生生活の満足度が下がった原因(回答を分割して内容ごとに集計)

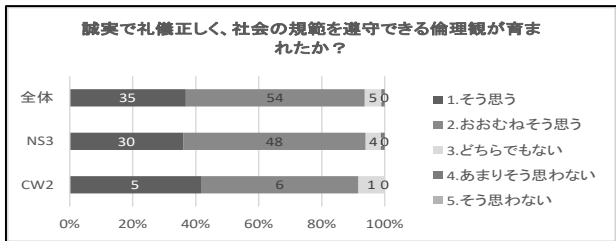
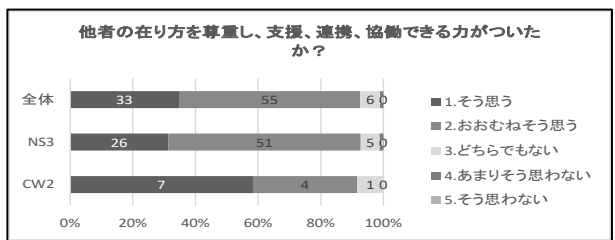
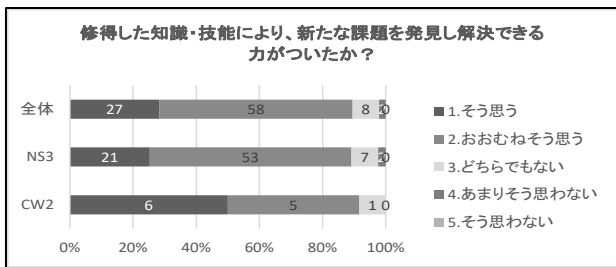
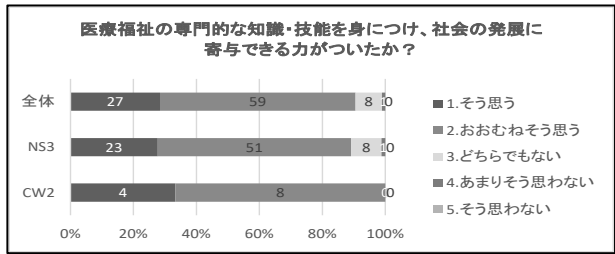
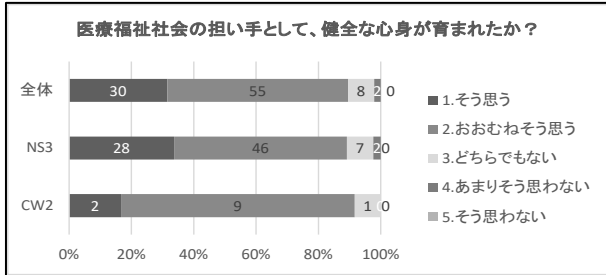
満足度が下がった理由	回答数	満足度が下がった理由	回答数
行事が中止になった	10	通学に関すること	2
人との交流に支障があった	29	大学からのメールが多い	2
学校に行けなかった	1	課題が多い	3
教室使用に関すること	13	生活習慣の乱れ	1
学生ホール使用に関すること	7	経済状況の悪化	3
図書館使用に関すること	1	ストレス	5
その他の制限がある	13	気力低下	1
通常の授業・実習でなかったこと	11	感染に対する不安	2
対面授業の再開に関すること	9	その他	13
オンデマンド授業実施に関するこ	9		

**内容評価:** 新型コロナウイルスによる学生生活の満足度への影響は、良否いずれにもあることがわかった。満足度が下がった理由には、「人との交流に支障があったこと」を挙げた学生が最も多かった。また「教室使用に関すること」「その他の制限がある」なども下がった理由としており、感染対策による生活上の制限が満足度の低下に大きく影響していたことがわかった。オンデマンド授業を実施したことに関しては、満足度が上がった理由にも下がった理由にも挙げられていた。しかし満足度が上がった理由として最も多かったのが「オンデマンド授業による学習効果」であり(55人)、どちらかというと肯定的に捉えている学生が多いことがわかった。

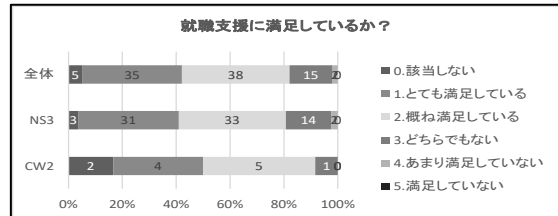
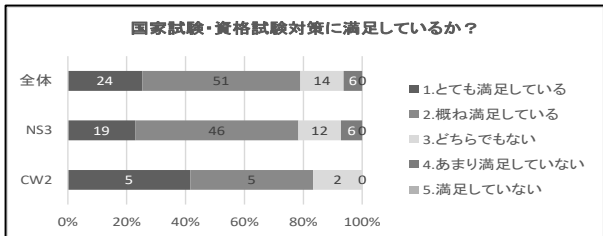
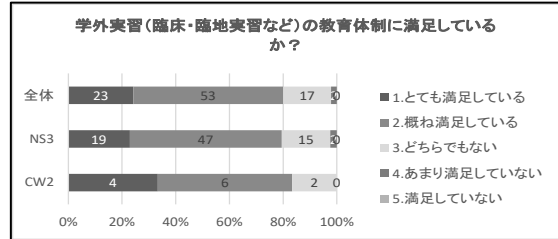
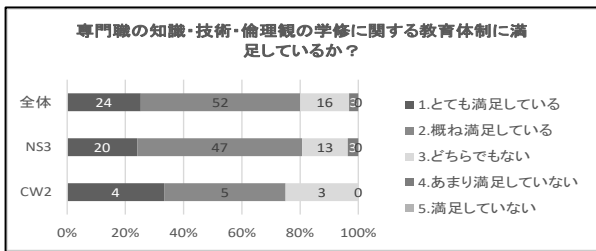
## 令和2年度 学生生活満足度調査(教務関係)

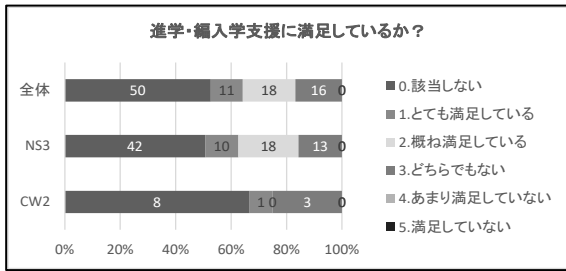
### 1. 卒業年次学生対象

#### 1) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）の達成度



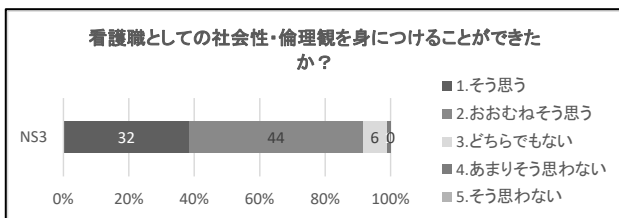
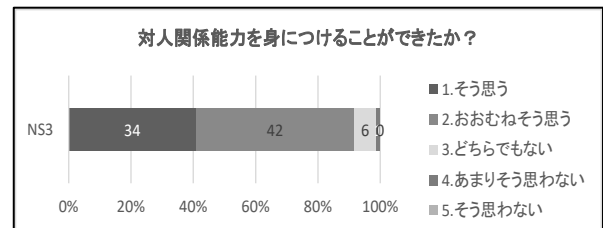
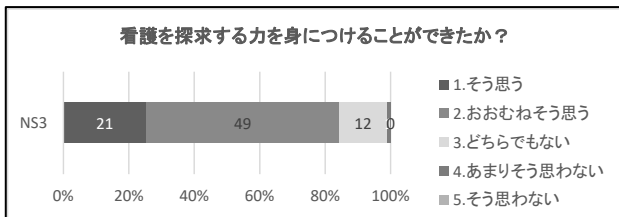
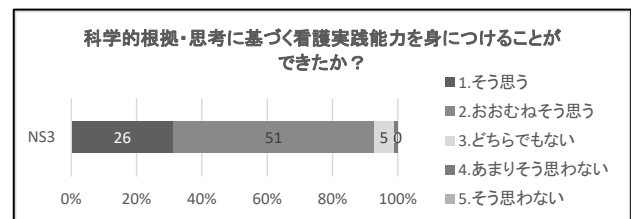
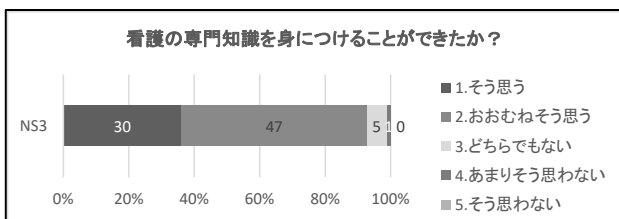
#### 2) 教育体制に関する満足度



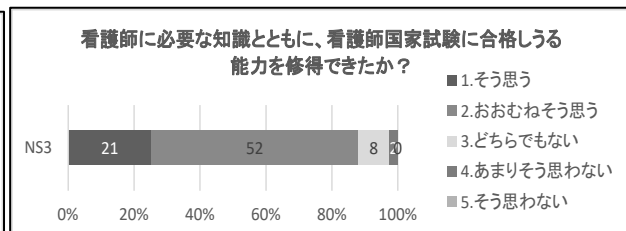
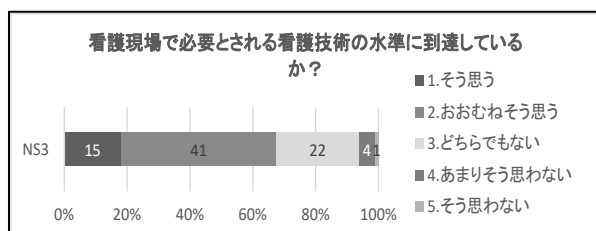


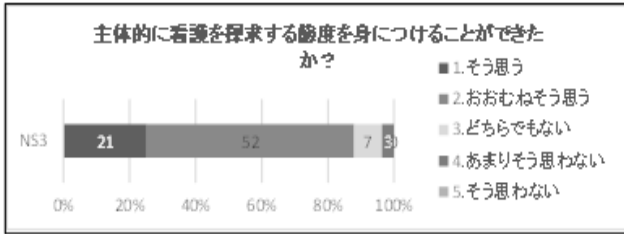
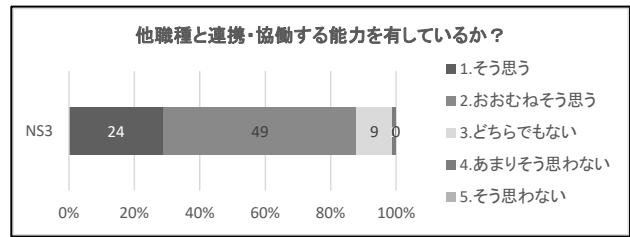
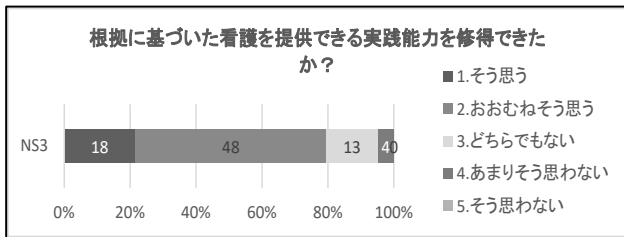
### 3) 学科の学修成果および学位授与の方針（ディプロマポリシー）達成度（看護科）

#### ①学修成果



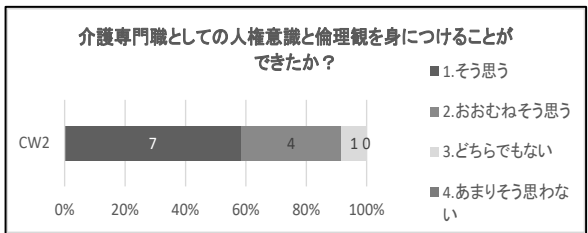
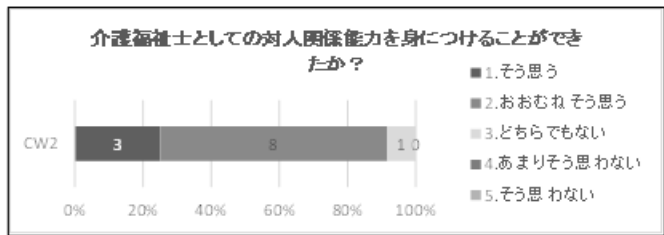
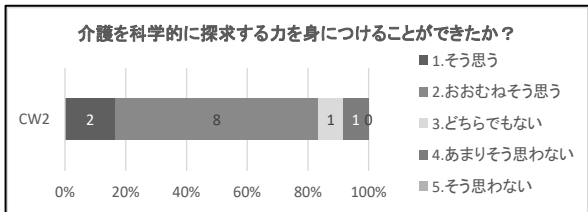
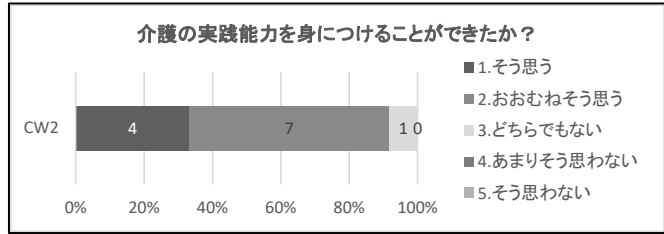
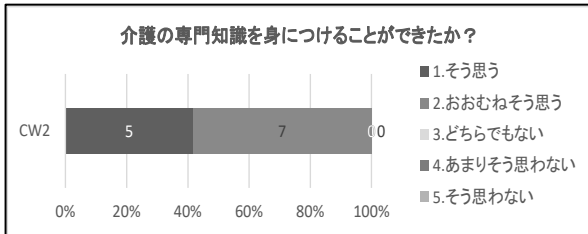
#### ②学位授与の方針（ディプロマポリシー）



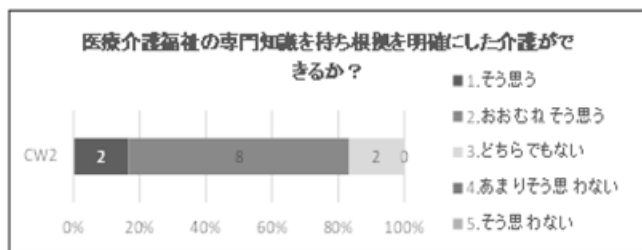
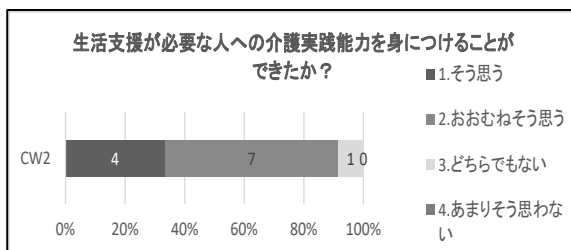


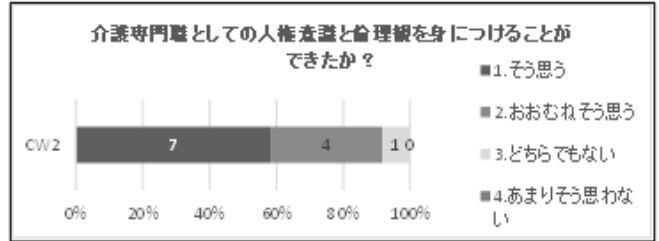
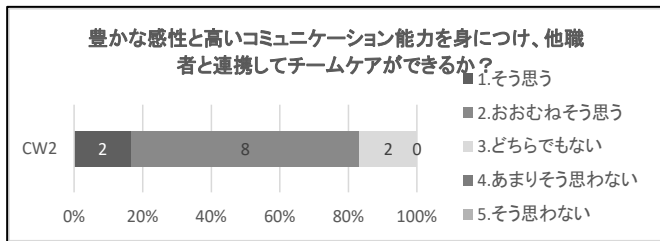
(医療介護福祉科)

①学修成果



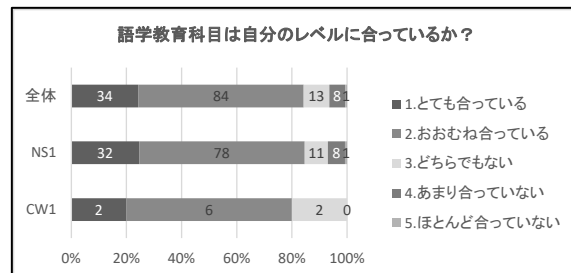
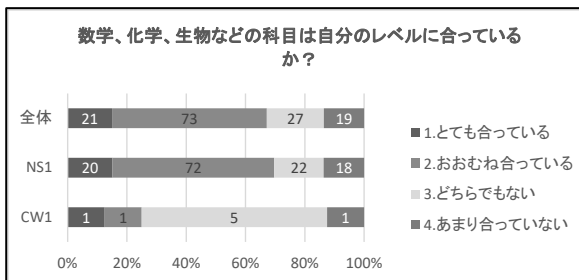
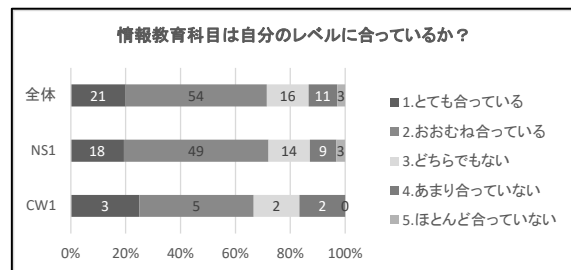
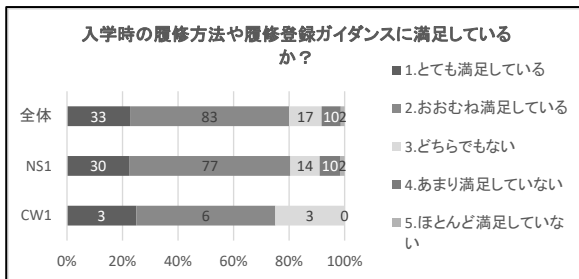
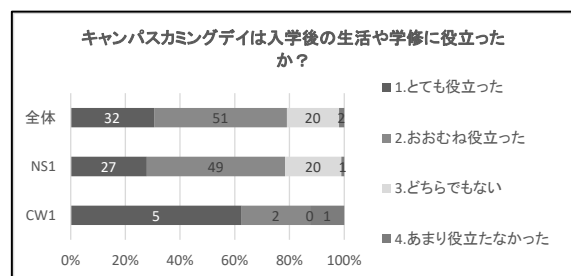
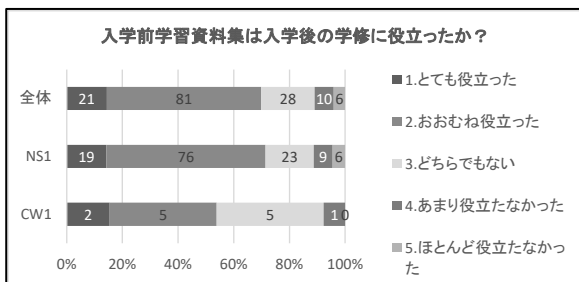
②学位授与の方針 (ディプロマポリシー)





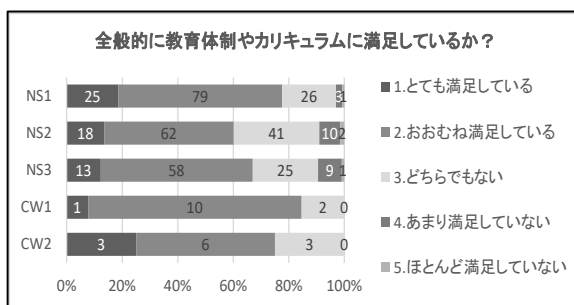
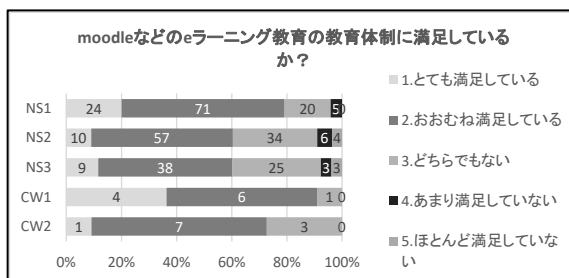
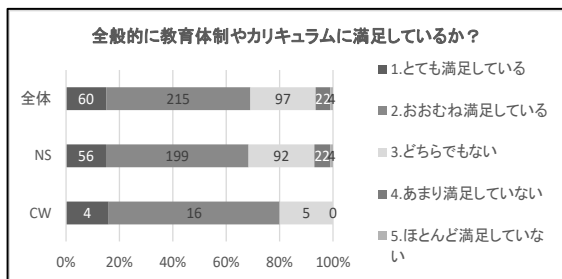
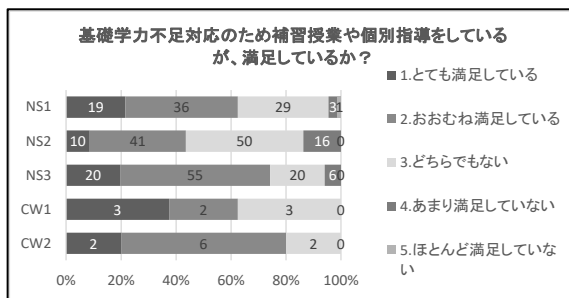
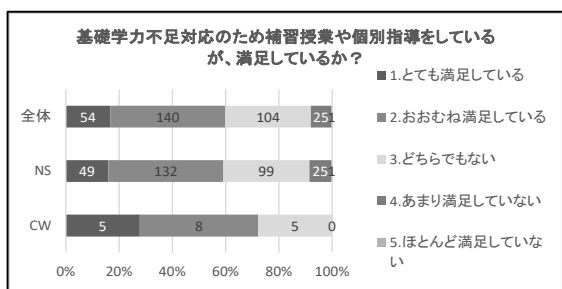
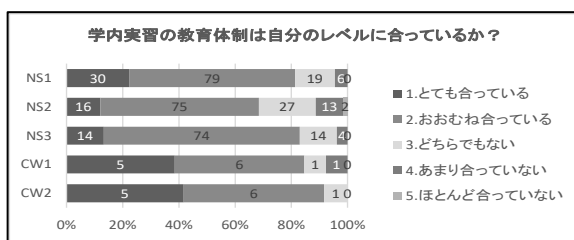
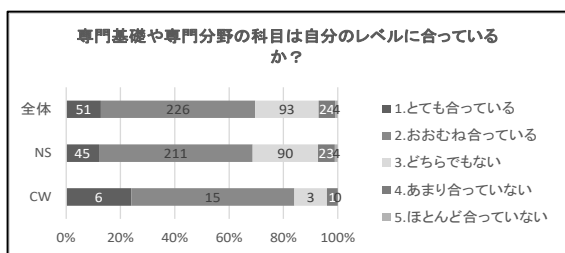
## 2. 1年生対象

### 1) 教育体制に関する満足度（入学前支援、基礎分野科目）



### 3. 全学年対象

#### 1) 教育体制に関する満足度（専門基礎分野・専門分野、教育体制）



#### 【全体まとめ：課題と対策】

学位授与の方針（ディプロマポリシー）の到達度は高く、すべての項目で、90%以上の学生が到達したと答えている。その中で「健全な心身の育成」「新たな課題発見と解決力」のふたつが、他の項目より到達度が若干低かった。これらを育むことが課題である。「健全な心身の育成」については、2021年度入学生から全学科で「健康体育基礎演習」を必修化し、加えて「健康体育基礎理論」を新たに選択科目として配置した。これらの効果を今後確認していく。また、「新たな課題発見と解決力」については、各学科の学習成果と関連が深く、看護科の課題として明らかになった「根拠に基づく実践能力」、医療介護福祉科の「介護を科学的に探究する力」をつけることで改善を図っていく。そのために各学科はこれらの学習成果を構成する授業科目の内容や方法を再検討し対応していく。

各学科の学位授与の方針の到達度については、看護科の課題として「看護現場で必要とされる看護技



術の水準」への到達度がある。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で未曾有の臨地実習時間の短縮、実習方法の変更、受持ち患者の制限等があった。次年度も同様の事態が発生することも念頭におき、学内演習の工夫と充実を図っていくとともに、限られた臨地での体験を学生間で共有し学びに繋げていくことが求められる。医療介護福祉科においては、1～2人の学生が学位授与の方針への到達を感じていない。学生の個を大切に、よりきめ細やかな支援を実施する。

入学前学習、キャンパスカミングデイ、履修登録や履修登録ガイダンスについては学生の満足度が高かった。しかし、進学・編入学支援については対象学生が少ないとはいえ、学生の満足度が十分であるとはいえない。支援内容が学生のニーズと乖離がないか検討し、学生に寄り添った支援を計画していく。

基礎分野の科目のレベルについては、理数系教育科目がレベルにあっていないと答えた学生の割合が低かった。2021年度から新たに理数系を統合した「自然科学入門」が開講となるので、授業内容と受講生レベルの適合や学習成果の推移をみていく。また、レベルがあっていないと感じる学生は、科目のレベルが高いと感じているのか、低いと感じているのかが今回の調査では明らかになっていない。今後はそれらの状況を掘り下げて把握し、科目担当者とともに検討し改善していく。専門基礎分野・専門分野、学内実習については、自分のレベルにあっていないと感じている学生の割合が高い。しかし看護科においては、2年生が「どちらでもない」という割合が高い。「学力不足のための補習講義や個別指導」「教育体制やカリキュラム」についても、2年生の満足度が他の学年より低い傾向にある。2年生は専門性の高い授業科目が増加するが、アドバイザーや国家試験対策であるチューター制の導入がなく、個別指導が手薄になる学年である。今後は2年生への学習支援に注力していかなければならない。一方、補習授業や個別指導については両学科とも卒業年次の学生の満足度が最も高く、国家試験対策としての補講授業やチューター制での個別指導が満足度と結びついているといえる。今後もこれらの支援を継続させ、高い国家試験の合格率を目指していく。